



ルイス・サンタナ スペイン歌曲リサイタル

2025. 6. 5 (木)

開演 18:00 (開場 17:30)

Jesus Amat

Recital de Luis Santana

会場:横浜市大倉山記念館

東急東横線「大倉山駅」より徒歩7分 横浜市港北区大倉山2-10-1



José Manuel Cuenca

Yoko Takaki



予定プログラム

荒城の月、浜辺の歌
エル・ビート
スペイン民謡集 他

(裏面詳細)

出演：ルイス・サンタナ
ホセ・マヌエル・クエンカ
高木洋子
柴田杏里
手塚健旨
佐々木巖
杉本みどり



Anri Shibata



Iwao Sasaki



Midori Suguimoto



Takeshi Tezuka

主催：カンパニージャ

後援：プリマベラノアルハンブラギター

入場前売券：4,000円

(全自由席/当日 4,500円)

ご予約フォーム



☎ 090-5505-8757

Email: campanillaguitarra@gmail.com

*6月7日(土) 開演14:30~ (会場：大田区民プラザ大ホール)
「スペシャルゲストコンサート 名手たちの夢の共演！」
との限定ダブル券は6500円 ~ご予約フォームのみ取扱い





スペイン歌曲の名手、ルイス・サンタナ 待望の日本初公演

スペインのサモラ出身のルイス・サンタナは、スペインのリリック・シーンで最も尊敬されているバリトンの一人である。ロッシーニとサルスエラ、スペイン室内楽のスペシャリストであり、スペインとヨーロッパの最高のコンサートホールや劇場で演奏している。演劇界、テレビ界の著名人とのコラボレーションも多くモンセラット・マルティ・カバジェら多くの名歌手と共演している。プロダクション会社「オペラコンサート」の創立パートナーであり、2018年以降、年間100回以上のコンサートが続けており、2024年はスペイン、ヨーロッパ、アメリカで120回以上の公演を行い、絶賛を浴びている。プロコフィエフの生家から「アーティスト・プロコフィエフ」の金メダルを授与されている。

今回は日本人ギタリストの柴田杏里、手塚健旨、杉本みどり、ピアニストの高木洋子と共演して、日本のメロディとスペインの曲を歌う。また、新進気鋭のギタリスト佐々木巖が、名ピアニストのホセ・マヌエル・クエンカと共演するのも聴きどころである。

Program

I.

■ルイス・サンタナ (B) + 杉本みどり (G)
ふるさと (作詞:高野辰之, 作曲:岡野貞一)
荒城の月 (作詞:土井晩翠, 作曲:滝廉太郎)

■ルイス・サンタナ (B) + 手塚健旨 (G)
浜辺の歌 (作詞:林古溪, 作曲:成田為三)
エル・ビート (スペイン民謡)

■ルイス・サンタナ (B) + 高木洋子 (P)
ラ・タララ (スペイン民謡 G.ロルカ編)
寝てください、私の小さな男の子
(作詩 G.ロルカ, 作曲:J.センテノ)
カスティージャの秋の歌
(作詞 作曲:G.ロルカ, J.センテノ編)
四つ葉 (作詞:G.ロルカ, 作曲:J.センテノ)

II.

■佐々木巖 (G) + ホセ・マヌエル (P)
スペイン組曲 (G.サンス)

■ルイス・サンタナ (B) + 柴田杏里 (G)
スペイン民謡集 (G.ロルカ編)

ソロンゴ
セビージャの子守唄
ハエンのモーロ乙女
チニータス酒場にて
セビジャーナス

* プログラムに変更のある場合がございます。ご了承ください。

■ 佐々木巖 (ギター)

北海道出身、横浜市在住。10歳からギターを始め、これまでに、宮下祥子、手塚健旨、マリア・エステル・グスマン、フランシスコ・クエンカ、パヴェル・シュタイドルの各氏等、多くのマスタークラスを受講し、研鑽を積んでいる。様々な国内外のギターコンクールで受賞歴があり、特に2018年の第27回アンドレス・セゴビア国際ギターコンクールで第1位を獲得、さらに2021年に第29回山陰ギターコンクール・プロフェッショナル部門、2023年には第23回コマルカ・エル・コンダード国際ギターコンクールでも優勝を飾り、2024年3月にはスペイン各地で優勝記念の演奏会を成功させた。

■ 杉本みどり (ギター)

東京都出身、11歳よりクラシックギターを始める。現在手塚健旨氏に師事。マリア・エステル・グスマン、ラファエラ・スミッツ氏他マスタークラス受講多数。ソロ、ギターカルテット「アルカンヘル」、ギターアンサンブル「カンパニージャ」等、各地で演奏活動を行っている。



東急東横線大倉山駅から徒歩7分

プロフィール

■ ルイス・サンタナ / Luis Santana (バリトン歌手)

スペイン・サモラ出身のバリトン歌手。ロッシーニ作品とスペイン歌曲を得意とし、マドリッド国立音楽堂、ウィーン・ムジークフェライン、バルセロナ・リセウ大劇場など、世界各地の著名なホールで公演を行っている。ベートーヴェン「第九」やモーツァルト「レクイエム」などの宗教曲でも活躍し、オペラでは「セビリアの理髪師」のフィガロ、「蝶々夫人」のシャープレス、「魔笛」のパパゲーノなど主要役を演じ、著名な指揮者や歌手と共演。アントン・ガルシア・アブリルやクリストバル・ハルフトルなどの作曲家が彼のために作品を書いている。詩と音楽のコンサートも精力的に行い、2022年から2024年にかけて90回以上のリサイタルを開催。2025年にはペペ・ビジュエラとともに「霊的な歌」のツアーを予定。失われた音楽の復興にも取り組み、ロルカやアントニオ・ホセの歌曲全集を録音。プロコフィエフの生家より「プロコフィエフ・アーティスト」金メダルを授与される。CDはカスティージャの歌曲や聖テレサ・デ・ハススの詩をテーマにした作品などをリリース。

■ ホセ・マヌエル・クエンカ / José Manuel Cuenca (ピアノ)

コルドバ高等音楽院でピアノとクラリネットを学び、両楽器ともにキャリアの終わりに特別賞を受賞。世界中で数多くのコンサートを行い日本でも顔馴染みで、多くのファンがいる。ニューヨークのカーネギーホール、マドリッドの国立公会堂と王立劇場、トルコのアンカラにあるハチエップ・オーディトリウム、イギリスのロンドン・サウスバンク・センターのパーセル・ルーム、アンドレス・セゴビア・ハウス・ミュージアムの開館記念オーディトリウム、バレンシアのパラウ・デ・ラ・ムジカなど、一流の公共施設で演奏。弟のフランシスコ・クエンカとともに、スペイン音楽を中心に8枚のCDをリリースしている。リナレス市議会より2001年に文化賞を受賞。2009年には、エクスモ・デ・プエンテ・ジェニル市から「Her Favourite」の称号と市の金メダルを授与される。又、2010年には「アンドレス・セゴビア・メダル」が授与されている。ルイス・サンタナとの共演では、その伴奏の見事さが絶賛されている。

■ 柴田杏里 (ギター) <https://shibatanni.wordpress.com/>

1970年スペインへ渡り、マドリッド王立音楽院にてホルヘ・アリサ氏に師事。在西中、ナルシソ・イエベス、サインス・デ・ラ・マーサ、ホセ・ルイス・ゴンザレスの各氏に師事。1976年、同音楽院を首席で卒業。1978年、ターレガ国際ギターコンクール1位。1982年、ホセ・ルイス・ゴンザレス国際ギターコンクール1位。1998年には、ブラジル政府より第6回ヴィラ・ロボス国際ギターコンクールの審査員として招待され、同時にコンサートも行った。古典から現代の作品に至るまでレパートリーは多彩で、優れた音楽性と天性のリズム感は聴く者を魅了し、若い世代を含めファン層は厚い。

■ 手塚健旨 (ギター) <https://tezuka-guitar.com/>

札幌市出身。5年間スペインに留学。レヒーノ・サインス・デ・ラ・マーサ、ナルシソ・イエベス、ホセ・ルイス・ゴンザレスの各氏に師事。帰国後、コンサート及びギター教授活動続ける傍ら音楽雑誌への執筆、CD解説も行う。現在は国内はもとより、ヨーロッパ各国、トルコ、南米などで多くのコンサートをもち、各国の主要国際ギターコンクールの審査員も勤めている。2013年11月、リナレス市のアンドレス・セゴビア財団より、アンドレス・セゴビア賞のメダルを授与。2022年セゴビア博物館に『テツカタケシ音楽サロン』が設けられる。

■ 高木洋子 (ピアノ) www.yoko-takaki.com

横浜市出身。幼少時4年間ブラジルのサンパウロで過ごし、北鎌倉女子学園高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業後、スペイン、南米音楽作品を中心に演奏活動を展開。国内、スペイン各地をはじめ、ヨーロッパ各地、南米のチリ、ボリビア、アルゼンチン、トルコ、アジアなどで開催された国際音楽フェスティバルに招かれ出演。数多くのコンサート、地元TVやラジオに出演するほか、マスタークラス、コンクールの審査員も務めている。CDや編曲楽譜出版のほか、著書「スペインの風景～音楽で彩る旅行ガイド～」を(株)ヤマハミュージックメディアより発売。日本スペインピアノ音楽学会理事。